

受講番号 19059 学校名 青柳中学校 氏名 中山 華絵

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年生 生徒数 65 名
科目名 2年生 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 New Horizon English Course(東京書籍)

クラスの様子・特徴

明るく元気なクラスと、比較的落ち着いたクラスを担当しているが、どちらも好奇心旺盛な生徒が多く、コミュニケーション活動が好きである。学年内、クラス内においても、言語能力、表現能力、理解力に両極化が見られている。

問題の確定

英作文の問題に、白紙回答する生徒が多い。単語・熟語を覚えられていない。答えが完璧でないと解答しない傾向にある。

予備調査

A 授業の観察

アイデアが出ないのか、単語が浮かばないのか、文の構成が思いつかないのか、英作文を苦手とする生徒が多い。スペリングミスが非常に多く、語順がバラバラである。また、「書くこと」に強い抵抗を持っている生徒も少なくない。

B 生徒による授業評価

授業評価は、全体的には良好であった。英語力をつけたいと願う生徒は多いが、長文を読み取ったり文章を作ることに苦手意識を持っている生徒も多い。また、間違えることを恐れて書かない、という生徒も少なくないようだ。

C 学力データ

1学期中間テストでは、理解の能力および言語や文化の知識・理解を問う問題では正答率約50%に対して、表現の能力を問う問題では27.1%と非常に低く、英語で表現することが難しい生徒が多いことが分かった。

リサーチ・クエスチョン

生徒が正しい語順で英文を書けるようになるには、どのような指導をすればよいか。

仮説・実践・検証

仮説1

既習した単語を定着させていき、本文を何度も声に出して読ませることで、英文の中での単語の使い方が分かり、適切な英文を書けるようになるだろう。

実践1

新出単語の品詞や意味を班ごとに黒板に書かせたり本文をノートに写してくるなど、家庭学習として「書くこと」に取り組んだ。授業の中では必ずフラッシュカードを用いて、視覚と聴覚を使って確認をし、一斉に発音練習を行った。また、CDを利用してシャドーイングを行ったり、一斉音読や個人音読を行って、単語が定着するように取り組んだ。

検証1

書く機会を増やすことで、書くことへの抵抗感は少なくなったように感じた。単語数は増えたが、スペリングミスについては減らなかった。しかし、英作問題に無回答する生徒が減り、「書くこと」への意欲づけは進んだように感じた。

仮説2

単語数を増やしつつ、パターンプラクティスを重ねていくことで、表現の幅が広がり、スムーズに英文が書けるようになるだろう。

実践2

授業の最初の3分間で、前時に学んだ単語・熟語についてのテストを行った。単語テストの返却時には、必ず一言コメントを添え、意欲づけに努めた。熟語や重要表現については、パターンプラクティスを数多く行うようにし、また、発表者にポイントを与えるなどして発表にも力を入れた。プリントの問題やパターンプラクティスに積極的に取り組ませた。

検証2

単語テストを数多く行うことで、単語のスペリングミスが大幅に減った。意欲的に単語テストに取り組める生徒が増え、英作問題にも嫌がらずに取り組めるようになった。しかし、語順がバラバラで意味の通らない文が非常に目立った。

仮説3

音読筆写を有効に用いて基本文を習得させ、また語順の学習を重ねていけば、文法的な誤りが減り、正しい語順で英文が書けるようになるだろう。

実践3

授業の終わりに、その時間に学んだ基本文を音読筆写させ、基本文の定着を図った。授業の始めには、それまでに学んだ基本文をいくつか口頭で確認させ、また、学習班(4人班)の中で確認させるなど、グループ学習を取り入れた。単元が終わるごとに、その単元に出てきた基本文のテストを行った。

検証3

基本文の習得のための「音読筆写」は、非常に有効な手段であると感じた。ゲーム感覚で取り組ませたこともあり、音読筆写を楽しみにしている生徒も出てきた。これにより、基本文が高い確率で習得でき、英作問題に対して無解答の生徒が激減した。しかし、前置詞の使い方や接続詞による複文などには、まだまだ語順の間違いが見られた。

研究の成果

年度当初は英作文はおろか、英語を「書くこと」それ自体に拒否反応を示していた生徒たちが、「書く活動」を通じて、少しずつ抵抗感を無くしていくことができたように感じている。特に、「音読筆写」を取り入れ始めてからは、書くことを楽しいと感じる生徒さえ出始めている。基本文を習得することで、英作文を「簡単だ」と感じる生徒が増えたほどである。基本文を使って英作できるような問題を出題しているということもあるが、英語で表現することに意欲的になったという点では、大きな進歩である。

今後の授業改善の課題

「書くこと」に前向きな生徒が増えたとはいえ、中にはまだまだ拒否反応を示す生徒もいる。また、基本文の習得率が高まってはきているが、基本文以外の英文にはやはり、語順が誤っている文が多い。これからは基本文に限らず、様々な文を使って音読筆写に取り組んでいきたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話 088-882-7471